

# 研究テーマ: 全国規模医療情報共有に関する研究(1/2)

(プロジェクト番号 JGN2P-A20095)

研究機関: 京都大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院

日本医療ネットワーク協会、宮崎健康福祉ネットワーク協議会

## 研究の概要:

医療の情報化は、病院・診療所内の情報化であるEMR(Electronic Medical Record)が進められると同時に、地域単位での情報の共有化(EHR: Electronic Health Record)が進められている。地域内の診療情報の共有化については多くの成功事例が世界的に報告されつつあり、日本においてもいくつかのEHRプロジェクトが実現している。

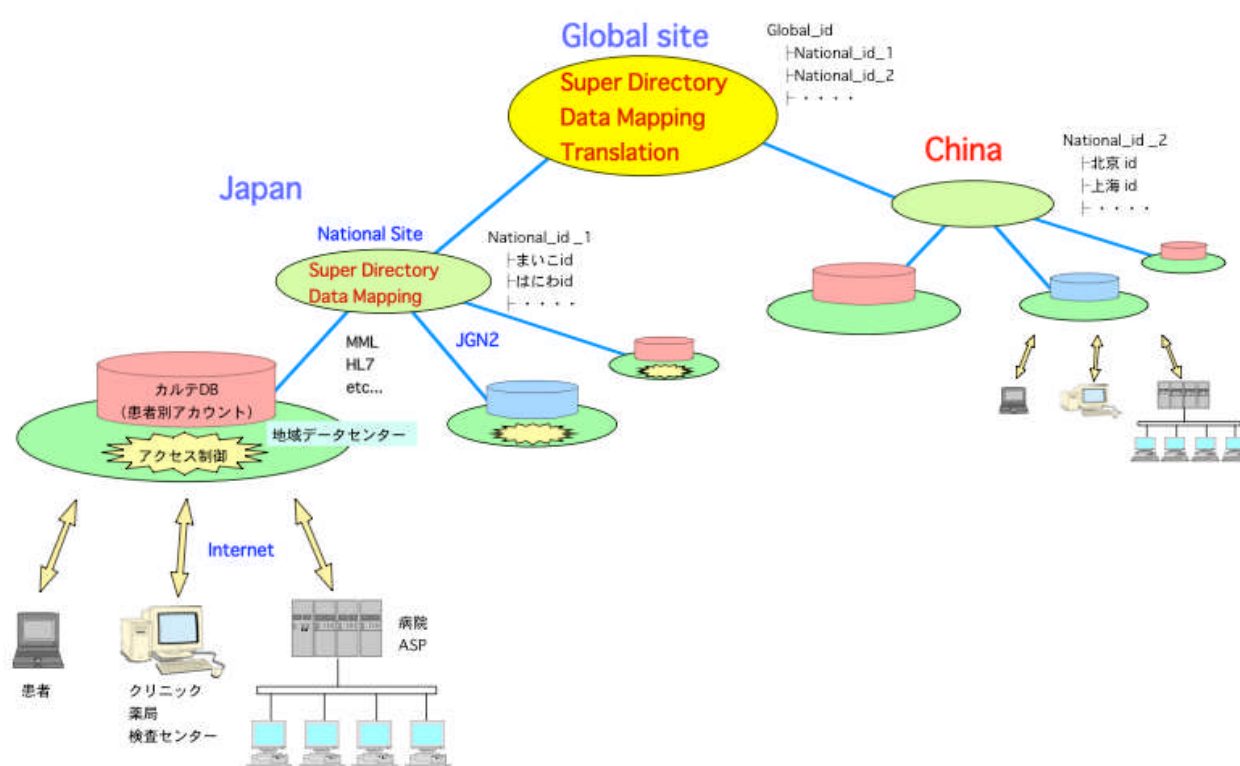
しかし、現代社会においてはヒトの往来は極めて盛んである。そのため、医療供給体制の基本単位が地域レベルであることが現実的だとしても、地域でクローズしたサービスでは多くの人間が医療連携の恩恵を受けることができないと考えられる。実際、我々も地域医療EHR基盤技術を構築し、日本の複数地域でEHRプロジェクトを展開してきたが、患者の移動に伴う解決策がないばかりに、患者の診療情報が国家レベルで網羅的に把握されないという課題に直面した。

よって、EHRの今後の発展を考える場合、地域レベルでの診療情報を国家レベルで統合化する仕組みや、データ互換等の機能を備える必要がある。

今回、我々は地域ごとのEHRシステムを連携させ、国家レベルでの一患者一カルテが実現可能な医療連携システムの仕組みを構築した。

## 研究の目的:

地域ごとのEHRシステムを連携させ、国家レベルでの一患者一カルテが実現可能な医療連携システムの仕組みを構築する。また、国家間の医療連携システム構築の足がかりとする。



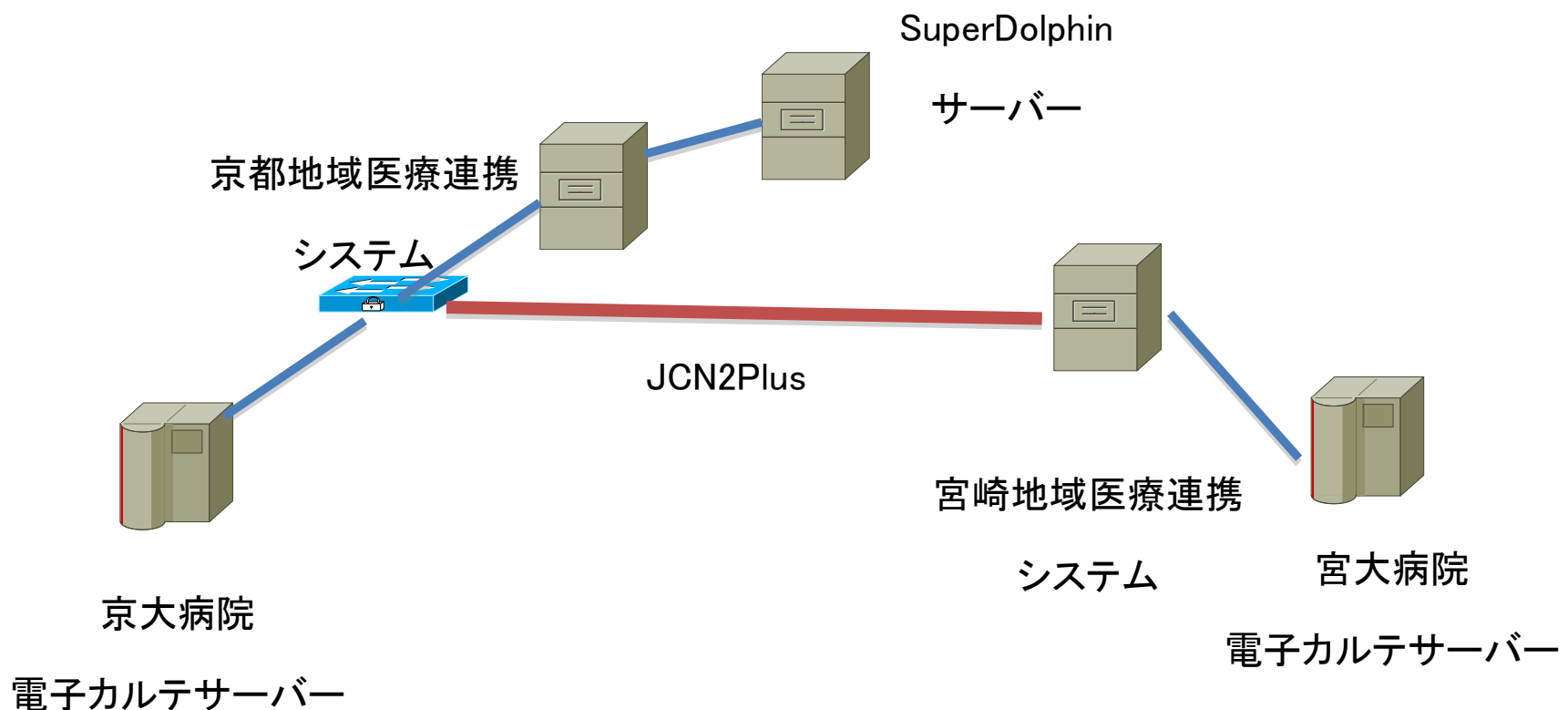
# 研究テーマ: 全国規模医療情報共有に関する研究(2/2)

(プロジェクト番号 JGN2P-A20095)

研究機関: 京都大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院

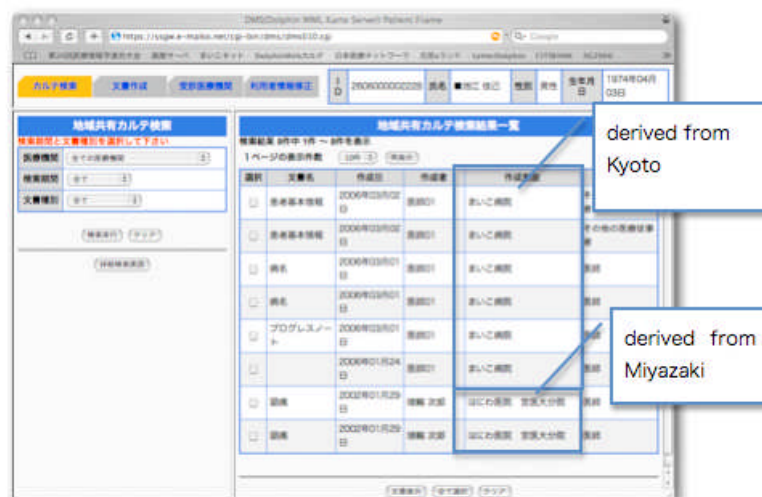
日本医療ネットワーク協会、宮崎健康福祉ネットワーク協議会

実験機器構成:



研究開発成果:

上記のネットワークを構成し、ディレクトリサービス、XMLマッパーを実装することで、地域を越えた診療情報の連携が可能になった。



プロジェクトのアピールポイント

地域医療連携システム間を統合する試みは世界初だと思われる。診療情報は個人情報であるため、セキュアかつ信頼性の高いネットワークが必要であり、nation wideなJGN2plusを用いて本システムを構築することが可能になった。

プロジェクトの自己評価

本プロジェクトの成果は、日本医師会雑誌、Japan Medicine、日経産業新聞等に掲載され、国内外に大きなインパクトを与えた。今後、EHRが国内の各地域で整備されて行くと思われるが、本プロジェクトで構築した仕組みおよびトライアルの結果が地域・国を越えた医療連携に寄与すると思われる。